

2012年を振り返り・・・太田選手卒業・・・

このメンバーでの全国大会出場は昨年に続き2回目となりますが、ここまで無事来れたことは多くの皆さまのご支援の賜物であると感謝申し上げます。

3名全員が敢闘賞を受賞することが出来たことで安堵しましたが、一方でより高いレベルで、もう1点を上げるためには、精度・時間などの技術面と共に必要なものがあると感じました。来年に向けてまた頑張っていくので、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



中山指導員

大会までに各自が日々目標を設定し、苦手な部分を重点的に取り組み克服するような訓練を進めてきました。フライス加工と仕上げ加工合計9時間に渡る全ての工程には意味があり、一つひとつの工程動作にこだわりを持って取り組む事ではじめて精度のよい作品を生み出せます。

今回の大会をバネにまた来年ステップアップを目指します。



高橋指導員



6月 新訓練所移転



7月 合同訓練会



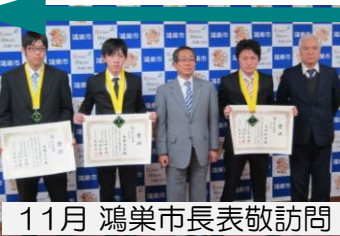
9月 応援メッセージと



10月 模擬訓練



11月埼玉県知事表敬訪問



11月 鴻巣市長表敬訪問



祝敢闘賞受賞!



10月 全国大会

太田和希選手

2年間の技能五輪への取り組みはこの大会で卒業となります。最初は本当に何も出来なかった状態から全国大会で張り合うことができるまでなれたのは、最高の指導員の方々に出会い、サポートを戴いた結果と本当に感謝しています。また、大会だけでなく訓練においても沢山の皆さまに応援を戴いた事が励みになりました。敢闘賞を獲得しうれしかったこと、もう少し出来たのではないかと悔しい思いをバネに、会社に恩返しをしていきたいと思えます。ご指導のほど、宜しくお願い申し上げます。



佐藤正人選手

大会直前の課題まで得点が伸びず不安がありました。大会当日もミスが出来ないというプレッシャーがあり、かたくなり時間が遅れてしまいました。完成し結果を残せホッとしています。来年は1段上を目指し頑張ります。



佐藤大昂選手

練習通りの時間配分で出来ず、また精度もいつもより悪く悔いが残ります。敢闘賞は嬉しかったのですが、今回の反省を活かし、訓練を積むことにより、より高い目標に向けた準備をこれから進めていきます。



2012年を振り返り

今年は、吹上工場より設備技術センターへの移転により訓練場を新設し、新たな環境での訓練となり、社内報取材をはじめ多くの来場者をお迎えする中で、本番さながらの緊張感の中での訓練が続きました。このような環境において日々の鍛錬を重ねた結果、全国大会での全員入賞が実現できました。また、中山指導員におかれましては、厚生労働省より、卓越した技能者（現代の名工）表彰を授賞し、二重の喜びとなりました。これも、関係各位のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。太田君は選手を卒業し、訓練により培った技能を發揮すべく、金型仕上者としての新たな訓練を開始しました。また、佐藤両選手は、今回の全国大会での反省点を克服し、来年の全国大会での上位入賞を目標に日々鍛錬を重ねて参りますので、従来にも増してのご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。



宮本部長